



燃料用の芋の苗を植える参加者＝鈴鹿市石薬師町で

燃料用の芋生産へ

鈴鹿ブレイン
ウィレジン 新エネ研究で開墾

【鈴鹿】鈴鹿市内の企業や学識経験者など産学官連携による鈴鹿ブレインウィレジン（会長・国吉修司エース設備社長）は二日、同市石薬師町の耕作放棄地で燃料用の芋を生産するための開墾式を開き、スタッフや当日参加者ら約六十人が開墾した畑に苗を植えた。耕作放棄地を活用したエネルギー研究の第一弾として開催。地元農家の協力を受けて借りた耕作放棄地で試験的にサツマイモを生産し、収穫したサツマイモは食用可能なものは地元直売所などで販売。それ以外のものは細かく刻んで乾燥させ、チップ状の燃焼用の燃料に加工して暖房器具などに使い、エネルギー効果やコストなどを研究する。

参加者らはこの日、生産用に地元農家から借りた耕作放棄地約八十㊦のうち、あらかじめ畑として耕した約二十㊦に燃料用のサツマ

イモ「紅東」の苗五千本を植えた。

式典では、研究機関として参加した近畿大学生物理工学部の鈴木高広教授は、

「初めはスケールが小さいが、どんどん発展させてい」とあいさつ。国吉会長は「耕作放棄地活用の後方支援をしたい」と話した。